

# 公 民 [ 倫 理 ] ( 100 点 50 分 )

2010年12月7日(火)3限 実施  
後期期末考査  
千葉県立長生高等学校 第3学年 ABCD組  
Edited by K.Kataoka

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙は問題とは別のマークシート式です。
- 3 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように4桁で記入してマークを忘れないこと。  
例 3年D組1番      0401
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

# 倫 理

( 解答番号 [ 1 ] ~ [ 50 ] )

第 1 問 次の文章 A B を読み下の問い ( 問 1 ~ 問 7 ) に答えよ。( 配点 20 )

A 仏教の開祖ゴータマ=シッダッタが生まれたころには、バラモンの権威がゆらぎ、武人や庶民が力をもつようになっていた。クシャトリアとして生まれた彼は、カースト制度を批判し、人間は真理の前には平等であると述べて [ 1 ] とよばれる正しい理法の実践を追究した。

ゴータマが恵まれた家庭環境を捨てて出家したのは、物質的な幸福、肉体的な健康のはかなさを実感したからであった。そして、坐禅によって静かに悟りをひらいたあとは、衆生にその教えを広めるための説法を開始した。彼は、輪廻などのあらゆる苦悩は、煩悩にまどわされて苦の原因について無知であることに由来すると考えた。アトマンの存在を説いたウパニシャッド哲学とは異なり、ゴータマは、すべての存在は「縁あって起こる」ものだと説いた。万物はたがいに依存しあっていて、それだけが切りはなされて成立しているわけではなく、そのことこそが不変の真理なのだという意味である。縁起は、(a)四法印の形に整理して説かれた。

人間は多くの場合、ひとりよがりな考えにとらわれ(我執)、さまざまなあやまちを犯して生きている。たとえば、強い者はその強さを「わがもの」と思いこんで傲慢になり、すべてが縁起によって起こることを忘れていて。弱い者は弱さにとらわれ、卑屈になって本当の自己をけがしている。しかし、弱者・強者の対立をこえて、誇ることもなく、いじけることもなく、たがいに助けあって正しい生活を成就していくことが、真理にめざめた人の知恵の教えである。

悲惨なことは、愚かな人間(凡夫)が苦のなかにありながら、その原因を知らないために、かえって苦の原因を積み重ねていることである。個々の悪しき意志や卑劣な感情、むなしい願望などは、けっしてそれ自体で起こるのでなく、すべてこの [ 2 ] に根ざした一連の現象であるため、この原因をはっきり知らなければならない。(b)それをまとめたのが四諦であり、その実践の方法が八正道である。

こうして正しい修行を積んだ結果、すべての束縛から解脱した悟りの境地にいたることができる。それを [ 3 ] という。人は、死ねば肉体の制約から解き放たれるため、[ 3 ] とは死去を意味するようにもなった。とくに、ゴータマの死は、仏教信者たちによって解脱の理想的なあり方とされ、そのありようを描いた [ 3 ] 像が数多くつくられた。

問 1 文章中の空欄 [ 1 ] ~ [ 3 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

[ 1 ] [ 仁 梵  
慈悲 法

[ 2 ] [ 無 記 精 進  
回 向 無 明

[ 3 ] [ 極 楽 如 来  
菩 薩 涅 槃

問2 下線部(a)に関して、四法印についての記述として適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[4]

永遠不変な実体は存在しない

苦悩の原因は渴愛である

諸現象は変転して定まりない

人生の全ては苦しみである

問3 下線部(b)に関して、四諦についての記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[5]

苦諦は、苦はすべて自己の煩悩や妄執など広義の欲望から生ずるといふ真実をあらわす。

集諦は、人生の現実には自己を含めて自己の思うとおりにならず、苦であるといふ真実をあらわす。

覺諦は、それらの欲望を断じ滅して、それから解脱し、安らぎに達して悟りが開かれるといふ真実をあらわす

道諦は、この悟りに導く実践を示す真実で、つねに正しい修行が必要であることをあらわす。

B 釈迦滅後 100 年、すなわちアショーカ王(前 3 世紀)のころ、仏教教団は保守的な上座部(テーラバーダ)と進歩的な大衆部(マハーサンギカ)とに分裂した。これは戒律や教理の解釈上の意見の対立によって分裂したもので、これを根本分裂と呼ぶ。以後、分派に分派を重ねて、上座部系 11 部派と大衆部系 9 部派の、いわゆる小乗 20 部が成立した。この 20 部に所属する經・律・論の三蔵に説かれた教説が [ 6 ] 仏教と定義される。

西暦紀元前後のころから、それまでの仏教に対する革新運動がおこってきた。いわゆる大乘仏教の成立である。これは、(c) ブッダの慈悲の精神 を強調する中で生まれた。慈悲を強調することは、他者に利益をもたらす利他の重視に、さらに利他による自利の実現の主張につながる。主として在家信者がになってきた慈悲にもとづく利他行の立場からは、従来の仏教の中心的なでない手である出家者は、ともすれば自己の解脱に熱心なあまり、他者の救済を軽視するよう見えた。そのため、革新仏教の信者たちは、[ 7 ] という聖者を理想としてひたすら自利 = 自己救済をめざすそれまでの仏教を、小乗とよんで批判した。そして、彼らはみずからを、ブッダを理想として利他にはげみ、一切衆生の救済をめざす菩薩の道をあゆむものと規定した。

大乘と小乗との相違の一つは菩薩(「ブッダとなる資格をもつ者」のこと)をめぐる理解のしかたにある。上座部系の [ 6 ] 仏教は、菩薩の道はガウタマのみの道であり、人は修行によって菩薩ではなく [ 7 ] となって解脱しうる、と説く。これに対して、思想的に大衆部系の流れをくむ大乘仏教は、ブッダとなることをめざす (d) 菩薩の道は万人に開かれている、と説くのである。

上座部系の仏教はおもにスリランカや東南アジアに伝わり、大乘仏教は中央アジアからチベットおよび中国・朝鮮・日本へ伝えられた。大乘仏教においては、すべての生命あるものにブッダとなる可能性を認める「一切衆生悉有仏性」や、発心さえすればだれでもが仏となれるとする「即身成仏」の思想などがはぐくまれた。そうした中でも、(e) 竜樹(ナーガール

ジュナ)による空の思想, 無着(無著・アサンガ)・世親(ヴァスバンドゥ)による唯識思想などは, 現代でもなお関心を集めている。

問4 文章中の空欄[6]～[7]に入れるのに最も適当なものを, 次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

[6] [ 部 派 原 始  
教 派 秘 密

[7] [ 比 丘 阿 羅 漢  
優 婆 塞 沙 門

問5 下線部(c)に関して, 慈悲についての記述として適当でないものを, 次の～のうちから一つ選べ。[8]

人びとに楽を与えることと人びとの苦を抜いてあげること。

家族愛に根ざすまごころと思ひ遣り。

衆生へのあわれみの心, いつくしみの心。

生きとし生けるものを苦から救済する利他行。

問6 下線部(d)に関して, 菩薩の道である六波羅蜜についての記述として最も適当なものを, 次の～から選べ。[9]

仏教の重要な修行方法を六種とし, それらの完成した完全なあり方のことである。

天道, 人道, 修羅道, 畜生道, 餓鬼道, 地獄道の輪廻の六つの道のことである。

南無阿弥陀仏の六文字を仏に託して表現したものである。

悟りを得るための六つの真実の智慧のことである。

問7 下線部(e)に関して, 次の竜樹『中論』本文を訳を参考にして読み, 空欄【A】に入る語として最も適当なものを, 次の～から選べ。[10]

・本文(『中論』観四諦品第二十四, 十八偈)

衆因縁生法 我れ即ちこれ無と説く

亦た是れ仮名(けみょう)と為す 亦是れ【A】の義なり

・訳

およそ, 縁起しているもの, それを, われわれは空であること(空性)と説く  
それは, 相待の仮説であり, それはすなわち【A】そのものである。

因 果            中 道            意 識            渴 愛

第2問 次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～問12)に答えよ。(配点 30)

A 春秋時代末期の争乱は戦国時代になるとさらに拍車がかかり、周王朝の封建制度は実質的に崩壊し、社会は解体の危機に瀕していた。諸侯たちは、こうした動乱のただ中で競って富国強兵策につとめ、思想家や政治家を広く世に求めた。この社会的要求にこたえて登場してきたのが諸子百家と総称される人びとである。彼らは自由な批判と活発な議論を展開し、たがいに刺激を与えあいながら多様な思想を生み出していった。すなわち、儒家・道家のほか、法治主義を唱える[ 11 ]らの法家、兼愛を説き、非攻説に立つ(a)墨子に代表される墨家、軍事思想や戦略・戦術に関する思想を展開した孫子らの兵家、さらに名家・農家・縦横家・(b)陰陽家などがたがいに論争し、豊かな思想を結実させていった。

問1 文章中の空欄[ 11 ]に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

「11」	[	恵 施	鄒 衍
		公孫竜	韓非子

問2 下線部(a)に関して、墨家の思想についての記述として適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[ 12 ]

服喪や音楽では寒さはしのげず腹はふくれない。

ひろく万人を愛することは、父を無みし君を無みする禽獣の愛である。

人を一人殺せば不義であるのに、侵略戦争が正義となるのは矛盾である。

身分、縁故、財産にかかわらず能力や人格の優れた人物を登用すべきである。

問3 下線部(b)に関して、陰陽五行説についての記述として適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[ 13 ]

五行とは木・火・土・金・水の五元素をいう。

理と気の交合によって万物が生まれ、その消長が変化をもたらすと考えられた。

陰陽五行は宇宙の生成、自然のめぐり、統治のあり方、人体のしくみなど、宇宙から人事にいたるあらゆる現象を説明するのに用いられた。

天体においては月と太陽が、それぞれ陰と陽にわりあてられ、惑星も五行に配当された。

B 孔子は、春秋時代末期の魯の国にうまれた。彼は、(c)周王朝の封建秩序が崩壊し混乱する社会で、人間のあり方についての普遍的な原理をさぐり、これにもとづいて社会秩序をたてなおそうとした。孔子が、「朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」とまで強調した「道」とは、この普遍的な原理、「人倫の道」であった。孔子は、(d)この道をまず仁に求めた。「仁とは何か」という弟子の問いに対して、孔子は端的に「人を愛すること」だと答えている。

孔子の (e)仁の教えを受け継ぎ、発展させたのが孟子である。孟子は、紀元前 4 世紀ごろ、戦国時代にうまれた。彼は、当時衰えていた儒家を復興し、人間の本性は善であるとする性善説を唱えた。

孟子の性善説に対して、同時代の荀子は、孔子の [ 14 ] の教えを継承しながらも、性悪説を唱えた。荀子によれば、人間にはうまれつき利を追い求め、人を憎む傾向があるため、自然のまま放置すると争乱におちいる。それゆえ、人間の本性は悪と考えるしかない。彼は、社会の秩序を保つためには、欲望に流される利己的な本性を、規範としての [ 14 ] を身につける努力と教育によって、人為的に矯正していく必要があると説いた。孟子が善であるとみた人の性質も、荀子からみれば、後天的な作為による矯正の結果でしかなく、[ 14 ] にもとづく政治を主張した。

孔子を祖とする儒家の教学を儒学という。儒学は、前漢時代に国家の教学として採用された（儒学の官学化）。宋代以降は、それ以前の (f)五経にかわって、四書を重視する新しい儒学があらわれた。これを代表するのが、宋代の朱子（朱熹）の朱子学と、明代の王陽明の陽明学である。

朱子は、天地万物は、そこに内在する宇宙の原理である理と、その物質的な素材である気によって構成されていると説いた。そして、人間にもこの理が貫通していると考え、天から得た [ 15 ] の性に理があり、この理をきわめ、気質の性による欲望をおさえて理に従うべきことを説いた。そして、万物の理をきわめて知の極致にいたる [ 16 ] を重視した。

これに対して (g)王陽明は、朱子学に対立し、理は天地万物に内在する客観的なものではなく、人間のうまれながらの心がそのまま理であるとした。そして、心の本体を善悪を判断する能力ととらえ、この良知をきわめて生きることを説いた。さらに、実行できない知は真の知ではないとして、[ 17 ] と主張した。

問4 文章中の空欄 [ 14 ] ~ [ 17 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- |        |   |                     |     |
|--------|---|---------------------|-----|
| 「 14 ] | [ | 忠                   | 義   |
|        |   | 仁                   | 礼   |
| 「 15 ] | [ | 天 与                 | 本 然 |
|        |   | 天 然                 | 生 来 |
| 「 16 ] | [ | 平天下                 | 居 敬 |
|        |   | 格物致知                | 心即理 |
| [ 17 ] | [ | 知ることによって実行することができる  |     |
|        |   | 知ることと実行することは別物である   |     |
|        |   | 実行することによって知ることができる  |     |
|        |   | 真に知ることと実行することは同一である |     |

問5 下線部(c)に関して、周の礼樂を整えた人物として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 18 ]

旦 舜 禹 堯

問6 下線部(d)に関して、仁についての論語の記述として適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[ 19 ]

王また仁義を曰わんのみ。何ぞ必ずしも利を曰わん。

己れに克ちて礼に復るを仁と為す。

孝弟なる者は其れ仁の本たるか。

夫子の道は忠恕のみ。

問7 下線部(e)に関して、孟子の思想についての記述として適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[ 20 ]

浩然の気を養うには義と道に沿った心を作り、義と道に沿った行動をなす必要がある。

人民は安定した収入なしではとても安定した心を持つことができない。

自分がして欲しくないことを他人に無理じいしてはならない。

惻隱，羞惡，辞讓，是非の心が生じぬ者は人とはいえない。

問8 下線部(f)に関して、五経と四書の組み合わせとして適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[ 21 ]

五経 - 書経，四書 - 孟子

五経 - 中庸，四書 - 礼記

五経 - 春秋，四書 - 大学

五経 - 易経，四書 - 論語

問9 下線部(g)に関して王陽明の語録として、最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[ 22 ]

太極図説

近思録

四書集注

伝習録

C 『老子』の思想の中心は、個人的あるいは (h)政治的な成功をかちとるための「無為」の術を説き、そのための根拠づけとして考えられた形而上的な根源、「道」を説くことであった。まず「道」とは、「これを視れども見えず、これを聴けども聞こえず……混じて一となる」といわれるような、感覚を超えた一者で、天地万物の存在に先だって独立自存しており、しかも大きな現実的な働きを遂げている。すなわち「道は一を生じ、一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生ず」とあるように、万物生成の根源として「天下の母」であった。

いいかえれば、人間を含む世界の存在はすべて「道」によってこそ、それぞれのあり方を遂げている。そこで、万物は「道」に従ってあるがままに（自然に）あるのだが、人間は私的な意欲をもってしばしば「道」を逸脱する。それが人間の不幸である。そこで、「ただ道にのみ従って」、人としてのさかしらを棄て、ことさらなしわざを避ける「無為」の立場に身を置き、「無欲」になって、他人にぬきんで自分を顕わすようなことをせずに、弱々しくへりくだっていくのがよいとする。「無為にして為さざるなし」「無為」であればすべてが成し遂げられるのである。「道」の大きな働きは、その働きの跡を残さない自然なあり方であるから、人はそれを模範として「道」の絶対世界に「復歸」せよともいう。

『莊子』の思想はまず [ 23 ] 思想をその根底に置いている。それは現実のすべての差

別の相を平等視する一種の観念哲学であって、生死、貴賤、大小から是非善悪の問題まで、それらの対立相を斉一視する超越的な立場を強調し、その (i) 対立の相にとらわれることから生まれる煩わしい現実の苦悩を超脱しようとしたものである。この高い境地を「道枢」(道の中心)とか「天鈞」(天の中心)とよんだ。そして俗界の束縛から解放されたその自由な境涯を「逍遙遊」と名づけた。さて、その境地に達するための方法が「因循」である。それは、「自(おの)ずからに然(しか)る」自然な絶対の道理に「因(よ)り循(した)がい」身をまかせていくことである。

そこには無私忘我の態度が要求される。「坐忘(ざぼう)」がそれであった。人としてのさかしらを捨てて自ずからなる絶対の理と合一するところ、「天鈞に休(い)こ」う」境地にこそ、とらわれのない伸びやかな精神の自由世界が開かれる。そこには一種の超脱の宗教性があった。要するに、万物斉同の哲学とそこに基礎を置く因循主義とによって、精神の自由と平安を求めるのが、荘子の思想であった。

問10 文章中の空欄[23]に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

[23] [ 懐 疑 超 越  
 斉 物 独 断

問11 下線部(h)に関して『老子』に描かれる理想的な政治のあり方として、最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[24]

小国寡民 王道政治 徳治主義 霸道政治

問12 下線部(i)に関して『荘子』に描かれるエピソードとして適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[25]

車輪の中央から四方へ出ている三十本の棒は、ひとつのこしき(車輪の中央の部分)を共有している。まさにそのこしきの中空な部分に、車輪の働きがある。だから、有るということが利を生み、無いということが用をなすのである。

昔ある時、私は、夢の中で蝶になり、こちらへあちらへと、ひらひら飛び回っていた、まったく蝶そのものに成りきって。私は自分が周であることなどには気づかずに、蝶そのものの幸福感に酔っていた。

南海の帝をシュクといい、北海の帝を忽といい、中央の帝を渾沌という。シュクと忽とは渾沌の厚意に報いようとして相談した。「人間の身体にはみな七つの穴があって、これで、見たり、聞いたり、食ったり、息をしたりしている。ところが、渾沌だけにはこれがない。ひとつ、穴をあけてあげてはどうだろうか」

北方の海洋に、魚が棲んでいて、名を鯤と言う。その大きさは何千里なのか見当がつかない。鯤は変身して鳥となり、その名を鵬と言う。鵬の背の広さは何千里あるのか、これも見当がつかない。この鳥が旅に出る、すなわち南の海洋、天の池を目指して飛び立とうとする。



第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～問9)に答えよ。(配点 22)

中世のスコラ哲学においてはもともと教会の教義は絶対的なものと考えられ、知識の立場から教義に反するような結論を出すことは認められないはずであった。しかし14世紀に入り、唯名論者〔26〕などによって信仰と知識との分離が説かれるようになると、事情は変わってきているといえるであろう。確かに〔26〕が意図したように、これによって信仰の絶対性は守られるかもしれない。だが、逆に知識の立場からすれば、もはや教義を顧慮することなく、自由にどんな結論を導いても差し支えないということにもなるであろう。こうして、キリスト教の教義にとらわれることなく自由に考えてゆこうとする近代的精神が生じてくる。

しかしこのような近代的精神は一挙にして開花したわけではない。中世的束縛を脱してゆくためには、過渡期が必要であった。これが、(a)ルネサンスの時代である。ルネサンス期の哲学は、まずギリシア・ローマの古典の復興から始まる。これがいわゆる人文主義である。人文主義の中心地となったのはイタリアであるが、(b)ペトラルカなどはその代表的な人であった。

このような(c)人文主義的運動から、やがて内容的にも中世哲学の枠を超えた新しい哲学が生じてくるようになる。神は自然のうちに内在しており、無限の宇宙には全体として完全な調和と美とが成立しているという汎神論的自然哲学を説いたジョルダノ・ブルーノなどは、深く人文主義の影響を受けているといわれている。このように中世においてはまったく超越的な存在者と考えられていた神がわれわれ自身や自然のうちにも存するものであると考えられるようになったという点に、新しい時代の思想の現れを読み取ることができるであろう。

なお、近代的精神をもたらすのに力のあったものとして、われわれはルターやカルヴァンの宗教改革を忘れてはならない。またこの当時社会思想の方面で著名な人としては、教皇権に対して国家の権力を強調し、国家を強大にするためにはどんな手段をとっても差し支えないと主張した〔27〕や、近代自然法の父といわれる〔28〕などがある。

1515年、教皇レオ10世はローマのサン・ピエトロ教会の建設のために贖宥を告示し、ドイツでの贖宥状販売を許し、「箱の中へ投げ入れられた金がチャリンと鳴るや否や、魂が煉獄から飛び上がる」と誇大宣伝をされて売りまくられた。(d)ルターは、人々が贖宥状を購入することによって、あらゆる罰と罪責から解放され、確実に救済される、と信じたことに宗教的危機を感じた。金銭による贖宥状の購入という安易な行為には、「悔い改め」というキリスト者の基本的行為がまったく無視されていたからである。宗教改革運動の引き金となった『95カ条の論題』は、ローマによるドイツの財政的搾取を問題とただけではなく、新しい信仰原理の提示であった。その第1条において、ルターはキリストが「信ずる者の全生涯が悔い改めであることを欲した」とし、第36条では、真実の痛悔が「罰と罪責よりの完全赦免」であると主張した。さらに、第28条では救済は「ただ神の御心にのみかかっている」と主張した。人はただ〔A〕によってのみ義とされ、そのよりどころは〔B〕以外にないとする確信である。

問1 文中の〔26〕～〔28〕に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちから一つずつ選べ。

エックハルト	マキャベリ	ロック	クザーヌス
ホップズ	グロティウス	ウィクリフ	オッカム

問2 文中の[ A ][ B ]に入れるのに最も適当な組み合わせを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 29 ]

[ A ]	-	[ B ]
信仰	-	典礼
律法	-	聖書
信仰	-	聖書
律法	-	典礼

問3 下線部(a)に関して、ルネサンスという言葉のもとの意味として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 30 ]

改良            再生            啓示            発展

問4 下線部(b)に関して、ペトルルカについての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 31 ]

『デカメロン』を著すとともに、ホメロスの『イーリアス』の完全なギリシア語原典の写本を初めて修道院の図書館から掘り出したうえ、ラテン語訳本を見つけた。

長編叙事詩『神曲』を著して、ヨーロッパ・ラテン中世の文学、哲学、神学、修辞学などの伝統を総括し、ルネサンス文学の地平をきりひらいた。

人間の尊厳の根拠を自らの本性を自ら形成する自由意志にみとめ、あらゆる思想と信仰の調和をめざした。

抒情詩集『カンツォニエーレ』を著すとともにキケロやアウグスティヌスなどの古典研究に没頭し、キリスト教と古代ローマ文化の調和・統一をめざした。

問5 下線部(c)に関して、人文主義者エラスムスについての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 32 ]

私有財産と貨幣の存在しない理想社会『ユートピア』の生活を描いた。

『自由意志論』を書き自由意志をめぐるルターと論争をした。

聖書主義にもとづいてラテン語聖書をドイツ語に翻訳した。

錬金術の原典としてのヘルメス文書をギリシア語からラテン語に翻訳した。

問6 人文主義者ピコ＝デラ＝ミランドラについての説明として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 33 ]

ユダヤ教のカバラの神秘思想やヘルメス主義、新プラトン主義の思想などからキリスト教をとらえなおした。

人間の究極の目的は、自然の秘密を知り、大宇宙の創造者である神と一致することであるととした。

宗教的信仰と神の存在を否定し、自由意志を持った人間が世界の中心であり、自然の支配者であるととした。

人間のみが、自らの自由な意志によって自分の欲するところの者となるように神によって定められているとした。

問7 次の文はブルクハルトの『イタリアルネサンスの文化』からの引用である。文脈から考えて文中の空欄[ C ]に入る言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 34 ]

ルネサンスの文化は、はじめて[ C ]の完全な内実をそっくりそのまま発見して、それを明るみに出すことによって、世界の発見にさらに大きな功績を加える。まずこの時代は、個人主義を最も強力に発展させる。ついでそれは個人主義をあらゆる段階における個性のもっとも熱心な、もっとも多面的な認識にみちびく。人格の発展は、主として自己及び他人における人格の認識に結びついている。この二つの大きな現象の間に、我々が古代文学の影響を与えなければならなかったのは、個性的なものならびに普遍的に[ C ]的なものの認識と描写の仕方が本質的にこの媒体によって色づけられ規定されるからである。しかし認識の力は、時代と国民の中にあつたのである。

古 典            人 間            信 仰            自 然

問8 下線部(d)に関して、ルターの著作として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 35 ]

神学大全            キリスト教綱要            神の国            キリスト者の自由

問9 カルヴァンの予定説の記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 36 ]( 1994 年センター本試験より )

救われる者と救われない者との区別は、人間の行いによって決まるのではなく、神によってあらかじめ定められている。

人間の行為は、自由な決定によるように見えても、すべてはあらかじめ自然の必然性によって決定されている。

恩寵を受けて救われる者とそうでない者との区別は、この世での行為の善悪に応じて神が決定する者である。

神はあらかじめすべての人間に救いをもたらすことを約束しており、救いとこの世での倫理的な生活とは無関係である。

第4問 次の文章 A,B を読み，下の問い（問1～問11）に答えよ。（配点 28）

A 近代科学の始まりは，ルネサンスや宗教改革を通じて教会の権威から自己を解放したヨーロッパ人が，自己の理性と感覚を頼りにこの世界，この自然を新たにとらえなおそうとしたところにもとめられる。すなわち，神学的な解釈から自由に，観察や実験を通じて自然そのものに内在する法則を見いだしていこうとしたところである。とはいえ，このような新たな自然探究も，キリスト教とまったく無縁の地盤から生じたわけではない。むしろ，それは，キリスト教信仰をささえとして，それに促されて始まった。『[ 37 ]』を著したコペルニクス，(a)落体の法則を発見したガリレイ，惑星軌道が楕円であると説いたケプラーなど，当時の偉大な自然科学者たちを自然探究へと駆り立てたものは，自然の秩序を明らかにすることが，この宇宙を創造した神の栄光をあらわすことになるとする信念であった。

もちろん，この自然の探究が，一面において，教会との対立を引きおこしたことも事実である。ガリレイをはじめとして，コペルニクスの地動説を支持した人々が，教会から激しい迫害を受けたことはあまりにも有名である。このように，近代自然科学は，キリスト教との複雑なからみあいの中で成長をとげたのである。

ベーコンは，従来の学問であるスコラ哲学は空虚な議論におちいり，少しも実際の生活に役立っていないと指摘し，新しい学問は，直接自然を探究することによって，自然を支配し人類の生活を改善していくような知識を追求するのとなければならぬとした。この彼の主張を表現した言葉が『[ 38 ]』である。

彼は，そのような知識を得るためには，まず自然をありのままに観察することが大切であるとし，そのためには，わたしたちの観察をゆがめる多くの先入見，偏見 (b)彼はこれをイドラ (幻影，偶像)とよんだ を排除しなければならないと説いた。

デカルトもベーコンと同様，中世的学問にかわる新たな学問的方法をもとめた。ただし，ベーコンが感覚や経験を重視したのに対し，デカルトは，そうしたものはしばしばわたしたちを誤らせるから信頼できないとし，確実な知識は理性によってのみ与えられると考えた。そして，新たな学問的方法は，まず (c)だれにとっても疑うことのできない真理から出発し，理性的な推理をかさねることによってつぎつぎと新しい知識を見いだしていくという [ 39 ] 法によるべきだとした。

問1 文章中の空欄 [ 37 ] ~ [ 39 ] に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

[ 37 ] [ 天球の回転について 星界の報告  
天文対話 無限，宇宙および諸世界について

[ 38 ] [ 存在するとは知覚されることである 知は力なり  
我思うゆえに我あり それでも地球は回っている

[ 39 ] [ 三段論 帰納  
背理 演繹

問2 下線部(a)に関して、ガリレオ・ガリレイについての記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[40]

イタリアのピサに生まれ、慣性の法則や木星の衛星などを発見するとともに、宇宙という書物が数学の言葉で書かれているということを主張した。

イギリスの数学者、物理学者で古典力学の確立者として、力学・数学・物理学等の分野で業績を残したとともに、錬金術や神学の研究にも力を注いだ。

ドイツに生まれ、新プラトン主義や神秘主義的な宗教的情熱にもとづいて宇宙の調和を探究し、従来円運動で説明されていた惑星の運動を楕円軌道であらわした。

ポーランドに生まれ、イタリアに留学している際にギリシアの古文獻にふれて太陽中心説を知り、地動説による惑星の運行をとらえた。

問3 文中の下線部(b)に関して、劇場のイドラの例として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[41]

NHKのテレビで報道していることだから間違いはないだろうと考える。

友達のお兄さんがUFOを見たという山で、自分もUFOを見ようと思う。

夏の浜辺で女性を見ると、だれもがまぶしく見えてしまう。

おでんなら、わが家で食べる静岡風のおでんがどの店よりも一番美味しい。

問4 フランシス・ベーコンの著作として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[42]

ノヴム・オルガヌム	方法序説
ニュー・アトランティス	学問の進歩

問5 下線部(c)に関して、デカルトが疑うことのできない真理と考えた「思惟する自我の明証性」の説明として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[43]

少しでも疑問をさしはさむ余地のあるものを全部、絶対的に虚偽なものとして放棄したすえに見出した真理である。

人間の精神活動があってはじめて自分も含めた事物の存在があるのだから、精神と物体は主客が一体となって純粹経験として現前する。

これは、どのような懷疑によっても疑いえない明晰かつ判明な真理であり、哲学の第一原理として受け入れることのできるものである。

コギトとは思惟する自我のことであり、延長をもった身体が存在に先立ってその存在が確認される精神的な存在である。

問6 すべてが疑わしく何も信頼できないとき、デカルトはどのような道徳に従うべきであると語ったか、その道徳として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[44]

高邁の徳	習性的徳	暫定道徳	自然道徳
------	------	------	------

問7 スピノザの物体論として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[45]  
人間の思考は物理的であり、人間は考える物体である。  
神以外にいかなる実体も存在せず、物体は神の属性かその変様である。  
存在するとは知覚されることであり、物体は精神の産物である。  
創造されたモナドはどれも全宇宙を表現するが、特に物体をより判明に表現する。

問8 ヒュームの思想として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[46]  
自然の奴隷としての人間が、観察と経験とに基づく自然の解明を通して自然の支配者へと反転する過程と方法を研究した。  
人間の心はタブラ・ラサであるとして、デカルトの認めた生得観念を否定して後天的に心に観念が刻まれていくことを示した。  
因果関係から「ひき起こす」とか「力」とかいう概念を排除し、それは「恒常的连接」という関係にほかならないとした。  
数学や自然科学は純粹悟性概念の協働によって確実な学的認識たりえているのであり、感性的制約を超えた対象にかかわる形而上学は、確実な理論的学としては成立しえないとした。

B モンテーニュは、[47]ということをも標語とし、自分自身の吟味をとおして人間の本性や真実の生き方を見いだそうとした。とりわけ、宗教戦争の悲惨さを体験し、人間は神の名と信仰によって狂暴なふるまいに至ることさえある動物であることを知った彼は、まず自身を疑うことを説き、独断と偏見から脱し、傲慢さを捨て、他人の思想に対して寛容でなくてはならないと主張した。彼の時代、新大陸アメリカに逃れた人々は、先住民(アメリカ・インディアン)を野蛮人として軽蔑し、彼らの無知につけこんで先住民の土地を奪ったり、殺したりした。これに対してモンテーニュは、西洋人は先住民を野蛮であるというが、それは元来たんに習俗が異なっているということにすぎないと説いた。先住民の中にも、人間の自然な本性に根ざした多くの美德がある。先住民をあざむく西洋人たちの方がかえって野蛮なのである。こうして彼は、キリスト教徒のみが文明人であり、他の人種は野蛮な未開人であるとする当時の考え方を批判した。

パスカルは、若いころ天才的な数学者・物理学者として、「パスカルの原理」の発見や、確率論などに多くの業績を残している。30歳ごろに決定的回心をして以来、(d)修道院で信仰生活にはいった。彼の考えるところでは、人間の本性は科学に代表されるような知的側面よりも、心の内面的な深さによって明らかになってくる。数学や物理学に代表される考え方は、推論と論証にもとづく「幾何学的精神」とよばれる。それは「理性の論理」である。しかしそればかりでなく人間には、微妙な心の動きを直観的に感じとる「[48]の精神」がそなわっている。それは「心情の論理」にもとづく。

問9 文章中の空欄[47]～[48]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

「47」	[	我思うゆえに我あり	知らないということを知っている
		わたしは何を知っているか	隠れて生きよ

「48」	[	文 学	音 楽
		霊 感	繊 細

問 1 0 モンテーニュの著作として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。

[ 49 ]

エチカ            パンセ            エセー            プリンキピア

問 1 1 下線部(d)に関して，パスカルの信仰についての記述として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。 [ 50 ]

神の選びと予定の下に世界と人間が保持されることが摂理であり，それ自体は救済と同じではないが，悪が猛威をふるうこの世にも救済は準備されている。

アブラハムの神，イサクの神，ヤコブの神。哲学者および識者の神ならず。确实，感情，歡喜，平穩。イエス・キリストの神。わが神，すなわち汝らの神。汝の神はわが神とならん

悪は善の欠如であるとともに意志的反逆に由来することであり，これに対して神の罰が来ざるをえないが，神は正しい法と摂理をもって世界を導く。

聖書は，人間に対する神の恵みを証しする書物であり，まさにそのようなものとして，神の恵みのみを告げるものとなる。

これで問題は終わりです。